

第一幕

登場人物…

ハンプティ

ダンプティ

ウイリー

マーニ

月の娘

マザー・グースの世界、夜の街角。

軽く心地良い足音を鳴らしてウイリーが駆けている。

ナイトキャップにナイトガウン、手には蝋燭、足は裸足。

ウイリーは眠りの精、どんなに急いで走っても、

その足音は風のように穏やかで誰の眠りも妨げない。

家々の鍵穴を覗き込みながら通り過ぎていくウイリー。

街角に人気は少ない。

ウイリー 「♪八時だ、もう八時だよ。

起きている子はいないかい」

空を月の馬車が翔けていく。

馬車の御者は見目麗しい青年マーニ。

バギー（馬車の客席）には美しい娘Ⅱ満月が座っている。

ウイリー 「やあやあ、マーニ。月の御者、マーニ。

これまたいっとう綺麗なレディをお乗せになって。

眩しくしてお星様がみいなくなってしまうたよ」

月の娘 「御機嫌よう、ウイリー・ウイリー・ウインキー」

ウイリーが馬車に併走しながら。

ウイリーの名前は長いため、歌うように拍子をつけて。

全キャストの間で同じ拍子で統一。

ウイリー 「御機嫌麗しゅう、お姫様。

嗚呼もう、ちよっと、意地悪だな。

マーニ、マーニ、お話くらいさせておくれよ。

君の馬車はどうにもこうにも急ぎ足過ぎる」

マーニ 「眠りの精霊、ウィー・ウィリー・ウィンキー。

悪いが相手をしてる暇はない」

ウィリー 「そんなつれない事言わず」

車輪ががたと回る音、少しだけ馬車が速度を落とす。

月の娘 「ごめんなさいね、優しいウィリー。

怖ろしい狼さえ追って来なければ、

貴方と沢山お話だってできるのだけど」

マーニ 「奴らに捕まるわけにはいかない」

相変わらず風のように穏やかに併走するウィリー。

少しずつ息遣いだけが変化する。

ウィリー 「そいつは一体何なんだい？

そんなに怖い奴なのかい？」

マーニ 「我らを馬車ごと丸呑みにするほどの大狼だ。

怖くないわけないだろう」

ウィリー 「おおおおかみ？ おーおーかみだって？

嗚呼、これは何て失敬！

何も知らずに邪魔をして悪かった。

僕はここらでお暇いとましよう」

遠くから狼の遠吠えが聞こえ、マーニが馬に鞭を打つ。
いなな

嘶く馬、馬車が一気に加速する。

マーニ 「そら来た、奴だ！ 月追いハティのお出ました！」

月の娘 「ウィー・ウィリー・ウィンキー。

また次の満月に会いましょう。

それまで世界に、昼と夜とがありますように」

馬車が遠ざかり遠吠えがその後を追い駆けていく。

最後は月の娘もウィリーも叫ぶようにして。

ウィリー 「♪ Good Night,

月のお姫様。貴女達に幸運を！」

見送りながら独り言。

(ここでウイリーがハティを呼び止める案もあり。
ハティを寝かしつけようとして突っぱねられる、
極々短いショートコント。
がるるる、って吠える演技とか入れてみたければ)

ウイリー

「なるほど、どうりで、そういうわけで。」

月はいっつも走りっぱなしでいるわけだ。

欠けては満ちて、昇っては降りて。

可哀想なレディにマーニ！ 休む暇もありやしない」

ウイリーが空から降りて街角に戻ると、

そこにはハンプティ・ダンプティ。

二人の台詞は一人が読むものを交互に分割しているため、
演技の際は二人分の台詞の流れに特に気をつける。
ただし、二人の間で会話になっている部分は例外。

ハンプティ

「こんばんは」

ダンプティ

「綺麗な夜だね」

双子

「ウイー・ウイリー・ウインキー」

ウイリー

「やあやあ、ハンプティ・ダンプティ。」

ちい小ちやな可愛い双子さん。

もうとっくにおねむの時間は過ぎてるだろう？

♪羊と一緒に家へ帰り、
ひぼりひぼり

雲雀と一緒に起きて、

暗くならない内に、

良い子は安らかに寝るものさ。

お月様が出たら、子供は眠るものなのさ」

羊とくからのくだりはマザー・グースの子守唄から引用。

子供を寝かしつける呪文のように、独特の拍子をつけて。

ダンプティ

「うーん、でもねえ、ハンプティ？」

顎に手を当てて考え込むような仕草でダンプテイを見る。

ダンプテイ 「私達だって眠りたいのは山々よ。ねえ、ダンプテイ？」

ダンプテイ 「眠れぬ夜は寒いよ、寒い」

ダンプテイ 「眠れぬ夜は怖いわ、怖い」

ダンプテイ 「星はこうこう、闇はひたひた」

ダンプテイ 「鼻ふくろうほうほう、狼アオオン」

次の台詞は特に情念を込めて。

朝、あるいはもっと遠い何かに恋焦がれるように。

ダンプテイ 「朝が遠いよ」

ダンプテイ 「♪インソムニア」

ダンプテイ 「♪インソムニア」

台詞というよりはハモるように、インソムニア。

前の台詞と被っても良し。

ウイリー 「…：眠れない、だなんて。

嗚呼、何だろう、そんな寂しい事があるなんて。

僕にできる事はないのかな。

ホットなミルク？ 安らぎのハーブ？

何だって用意してあげるとも。

だって、そう、僕は眠りの精なんだから！」

ウイリーは『嗚呼』をここまでで三回口にしてしているため、

それぞれ差をはつきりと。

双子 「…：…」

顔を見合わせてからウイリーに近付く。

俯いているウイリーを挟み込むように両側から。

ダンプテイ 「ねえ、ウイリー。そんな哀しい顔をしないで？」

ウイリー 「ハンプテイ…：…」

ダンプテイ 「そうだよ、君の所為じゃない」

ハンプテイ 「貴方はとっても、優しいわ」

ウイリー 「君達こそ、何て優しい子達だろう。

僕にできる事はといえば。

せめて、そうだ、お星様に願いをかけよう。

♪星の光よ、輝きよ、

お空に光る一番星。

Light, Bright, Tonight.

May, Might, Tonight.

どうかお願い聞いとくれ」

英単語の読み方はそれぞれ韻を踏んでいる。

ライト、ブライト、トゥナイト。

メイ、マイト、トゥナイト。

ハンプテイ 「ありがとう、ウイリー。私達なら大丈夫」

ダンプテイ 「そうとも、ウイリー。心配しないで」

ウイリー 「……ごめんね、僕もう行かなくちゃ。

地球は回る、くるくる回る。

月も巡る、くるくる巡る。

東が日暮れりや、次は西。

寝た子が起きりや、また子が眠る。

僕もマーニと同じだ、おんな休む暇もありやしなない」

最後の一行は自嘲するように、独り言。

ハンプテイ 「あら、マーニがどうかしたの？」

ウイリー 「いいや、こつちのお話さ。

それじゃあさよなら、ちい小ちやな可愛い双子さん。

せめて君達の夜が、静かな夜でありますように！」

手を振って駆けていくウイリー、見送る二人。

ダンプテイ 「Good Night,」

ハンプテイ 「それから、Sleep Tight」

『Sleep Tight』は少し含みを持って、皮肉混じりに。

ただし、ここでウイリーは気付かないので

あまり露骨にはなり過ぎないように。

ダンプテイ 「泥のように深あい、夢の中でね……」

くすくす、と微かな笑い声を残して二人も踵を返す。

解説..

プロローグから場面転換し、

舞台はマザー・グースの世界へ。

二人の言う夢Ⅱマザー・グースの世界そのもの。

歌によって役割やストーリーが与えられ、

その通りにしか動く事のできない登場人物達への皮肉。

以降の展開もマザー・グースの歌の筋書きに沿うため、

作品の全体に対する皮肉と捉えても良し。

二人もマザー・グースの登場人物ではあるが、

メタ視点を持った例外的キャラクター。

他ではレンなども同様にメタ視点を持っている。